

Vol.2

研究 セクションの お仕事

放熱材料の
製造方法について
国際学会で発表!
in ITALY

昨年(2012年)11月14日から16日の日程でイタリア・ミラノ市にあるPolitecnico di Milano(ミラノ工科大学)で開催されたInterfinish2012(国際表面処理学会2012)に於いて、弊社社長の仲川和志が「Manufacturing technology for heat radiation material by plating(めっきによる放熱材料の製造方法)」と題した講演を行いました。

これは今年度兵庫県COEプログラムの認定を受けた事業内容に基づいたもので、既に日本国内で特許を取得し(特許番号5006993)、現在米国、欧州、中国へ特許申請を行なっているものです。

「初めて国際学会に出席し、それも英語での講演、英語での質疑応答と何もかもが初めて尽くして、大いに刺激を受け、勉強になりました。」(仲川談)



営業が繰る、日々のできごと。

営業 本部の お仕事日記

Vol.2 営業 / 園田 康文

営業の仕事って?

昨年入社し、現在CG部門の営業を担当しておりますが、そもそも営業の仕事ってなんなのでしょうかね? とにかく売れまくる事? まあ端的に言えばそうなのですが、結局交渉していく事なのかな?と最近では考えています。納期、価格、品質など自社製品とお客様の様々なニーズの間に入りその橋渡しをする会社の窓口である、そんなイメージでしょうか。格好良い事を書きましたが、実際にはなかなかうまくいかず頭を悩ませる事もあるのですが……。

そんな中でも、当社の製品を使ってくださるお客様、その製品を作ってくれている製造現場のために、さあ、明日も交渉交渉!!

お客様に色々な提案ができるよう頑張ります!



▲大阪営業本部改装しました!

社長の独り言 かずやんの Wonder Land!

50歳を目前にして、青臭いことに固執するかなと思えば、やけに人生の残り時間に思いを馳せたりしております。そんなしがない三代目社長の、まだまだ不惑な真摯な思いを任せて書いてみようかと思っております。

●●「著名人との交流作戦!」●●

革製レコードクリーナー「奏」の発売を機に、アナログ音楽の素晴らしさをご理解いただいている著名人に贈呈し、もう一つの実物にサインを頂くという作戦が昨秋、持ち上がりました。レコード愛好家と公言している何人かの中から、まずお二人にお願いすることとしました。お一人は作家のM氏。もうお一人はミュージシャンY氏です。いきなり大物すぎるのではとの声もあるなか、お願いするなら大物が真情です。まずはどこに送らせていただくべきか(もちろんご自宅が分かるはずもなく、確実に

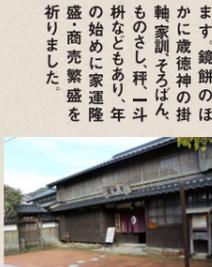
ご本人に渡して下さる先はどこか?) また、どんなお手紙を添えるのか(これを読んだら、私たちの真意が伝わる、長すぎない内容)の検討です。

構想から実行まで10日間。遂に10月中旬、祈りを込めて発送しました。待つこと暫し。こりやダメかな、と諦めかけていた頃、まずはM氏の担当の方から連絡がありました。何とご本人は以前から当社をご存知だったとの事。この事実だけで驚きと喜びで一杯です。しばらくして事務所から丁寧な手紙と共に二冊の本が送られて来ました。M氏は自作にしかサインをなさらない旨と、クリーナーを大変喜ばれている由。本には私の名前とサインがありました。一生の宝物です。

一方、Y氏の方はというと、こちらも諦めていた矢先、突然サイン入りの現物が届きました! ミッション成功です。ただ、ホームページ等での公表は控えて欲しいとの由。さもありなんの理由が添えられておりました。今回の作戦を通じてお二人の真心に触れた事と、携わってくださった担当の方々に感謝です。



昔ながらの床の間の正月飾り



浜坂先人記念館「以命亭」

浜坂の市街地を味原川沿いに海に向かって行くと、格子戸と塙のある大きな屋敷が見えてきます。かつて江戸、明治、大正、昭和初期と浜坂地域の政治経済を担ってきた七釜屋敷家です。今は町立先人記念館として活用されていますが、床の間の正月飾りは当時のまま飾られています。鏡餅のほかに歳徳神の掛軸、軸訓「おぼんものさし」や「一斗拵」などもあり、年の始めに家運隆盛・商売繁盛を祈りました。

部門 STAFF のオモイ。

笑顔で接客! 総務部門

総務部はお取引先様と直接対話する部門です。電話対応は「明朗快活」来客対応は「笑顔で丁寧」を心がけています。事務処理はもちろん社内の庶務もおまかせ! 福利厚生、事務用品・消耗品は欠かしません。各部門の業務が円滑に進むよう支えています。社内規則には厳しく、妥協は許しません。「外柔内剛」な女性4人です。



スピード発注! 購買部門

「資材買って下さい!」の言葉に予算と「にらめっこ」、スピード発注を日夜心がけている下田です。資材の発注が1日遅れたら、入荷が2・3日も遅れてしまう! と自分に言い聞かせ、製造部とのコミュニケーションを密にすることをモットーに頑張っています。自動車のスピード違反はダメでも、発注のスピードUPはOKかも?



昭和50年代の駅構内立て看板広告



昭和50年代、JR浜坂駅構内の3番線ホームに向かい合うように設置されていた弊社の看板(概ね縦2m・横3m)です。当時の看板は全て手書きで、力強さを感じます。この図柄も書き手の息吹が伝わってくるような迫力を感じます。

編集後記

輝かしい新年をお迎えのこと存じます。今年も巴年です。今まで積み重ねてきたことが実を結ぶ年だそう。詩人の田中冬二は「冬 但馬浜坂」と題して「新月が出てゐた 暗い町の間に 日本海の怒涛がきこえた 針問屋は重い戸をおろしてゐた」と詠んでいます。私たちは、その日本海の怒涛を応援歌として聞き、今までの精進が実を結び、希望の年、明るい年になるよう、頑張ります。

なんダイヤ!?

What is this?



2013

初春のお慶びを申し上げます。
本年も旧倍のご愛顧賜りますようお願い申し上げます。

1873年(明治6年)、縫い針を主に製造する「仲川製針工場」を仲川家5代目長太郎が創業いたしました。当時の浜坂村(現・新温泉町浜坂)は、江戸時代後期から盛んに生産された「浜坂針」の隆盛期でした。大正期になると、広島縫針工業が全国に覇をとるようになります。一方、浜坂縫針工業は昭和初期から蓄音器の普及に伴い蓄針業へ進出。東京、大阪、浜坂の三大蓄針生産地としてしのぎを削りました。

昭和30年代初頭、日本でも「レコードプレーヤー」が普及し始め、蓄音器が姿を消すと同時に針先にダイヤモンドやサファイアなどを用いた**宝石レコード針**が主流を担いました。そんな中、弊社は1959年(昭和34年)法人組織「日本精機宝石工業株式会社」を設立。翌年には現会長・仲川弘が隣村の女性教師からアメリカ土産に宝石レコード針を頂いたのを機に「これ、なんだいや?」と興味を持ち研究を始めました。その後、レコード針の製造を始め、1967年(昭和42年)宝石レコード針総合製造販売へ至りました。製品の命であるダイヤモンドや音にこだわり、時代の要請に応えながらお客様にご愛顧いただき、レコード針はもちろんのこと、**工業用ダイヤモンド工具**や**歯科用・工業用ダイヤモンドバー**、**ピックアップレンズクリーナー**へと業務を拡大して行きました。

お陰をもちまして今年で創業140年、法人設立55年を迎えることが出来ました。記念すべきこの年に、新たな挑戦としてダイヤモンドを活用した**放熱素材の開発**や、「音楽で暮らしをさらに豊かにする」をコンセプトに**新ブランド「プラス アス」**の展開を開始いたします。不透明な時代ではありますが、社員一丸となりこの難局を乗り越え、企業活動を通じて世界文化の向上に寄与できることを誇りに、取り組んでいきます。

JICOの技術 1

削る

歯科用・工業用など
多様な切削ニーズに応える
ダイヤモンドバーを生産。

「レコード針で培われたダイヤモンドの技術を他に転用できないだろうか?」こんな疑問からダイヤモンドバーの開発はスタートしました。工業用ダイヤモンドバーは金属部品、磁器、ガラス、半導体などの加工に使う研削砥石として歯科用バーは、歯科治療や歯科技工士向けにご利用いただいています。



歯科用バー

FGタイプ(軸径φ1.6mm・治療用)とHPタイプ(軸径φ2.34mm・技工用)の2タイプの製造許可を1981年に取得しました。現在、登録件数が約2,000品番ほどあります。また自社ブランドとしてJICO-MAXシリーズがあります。

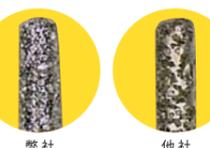
工業用
ダイヤモンドバー

現在約5,000品番を製造しています。軸径はφ1.6mm・φ2.34mm・φ3mm・φ6mmの4タイプを定番としています。砥粒は天然ダイヤモンド8種類、合成ダイヤモンド5種類、CBN(立方晶窒化ホウ素)8種類の計21種類を随時有し、また特注品も10本から承っています。

POINT 電着技術が
切削力を決める

弊社は、錆びにくく磁性を帯びにくいステンレスをシャンクに採用しています。また砥粒が電着された状態での形状、めっき厚、ダイヤモンドの集中度の均一性を徹底しているため、安定した寿命と高い加工性により、思い通りの加工が可能になります。

ダイヤモンドの集中度が違います!



POINT 徹底した検査・品質管理

ダイヤモンドの状態、めっきの状態など細心の注意をはらって検査しています。



一本ずつ人の手と目でチェック!

POINT シャンク加工から電着を一貫生産

歯科用及び工業用ダイヤモンドバーをシャンク加工から電着まで一貫生産しています。シャンクは一本ずつ手作業でマスキングし、天然ダイヤモンドや人工ダイヤモンドCBN砥粒を電着しています。それらを電着するめっき工程では、めっき液の成分バランスや温度などによってめっきの付き方が変わるので、日々その変化を見逃さず作業をしています。



DD副主任 / 安藤俊介



シャンク加工

組み立て作業

めっき前処理

めっき処理

JICOの技術 2 奏でる [レコード針]



STY主任 / 谷口みゆき

1本単位のご注文から生産

JICOのレコード針はおよそ2000種類、約30メーカーに対応する針を1本単位のご注文から生産しています。1本の針には最大45個の部品が必要ですが、全て手作業で心をこめて組上げます。ダイヤモンドチップ以外は全て内製で生産しているため即日出荷も可能です。レコードは過去のものではなく、今なお輝き続けています。

JICOの技術 3 測る [ゲージコンタクト]



CG副主任 / 森貴裕

用途に合わせてオーダーメイド

私たちの作るゲージコンタクトは、主に精密機械で測定を行う際の先端部に使用されているため、100分の1、1000分の1という細かい精度が必要とされています。お客様からのご要望に応じて、より満足していただける製品を作るために日々創意工夫しながら毎日の生産に臨んでいます。

JICOの技術 4 整える [ドレッサ]



CG / 宮脇祥

ダイヤの特徴を見極めます

砥石を整形するドレッサは、シャンクと呼ばれる鋼材に工業用ダイヤモンドを取付け、四角錐や円錐の形に削り製品にしています。形が全て違う天然ダイヤを使用するので、きちんとした対磨耗方向に研磨できるようにダイヤの方向を見極めて作業をします。亀裂など天然ダイヤの特徴にも気を配りながら、より良い商品作りを心がけています。

JICOの技術 5 拭く [レンズクリーナー]



CLE課長 / 大上恵子

仕上がりの美しさにもこだわります

ディスクに植毛されている最適なプラン素材、植毛位置にこだわり、「不適合品を次工程に回さない」を基本とし、美的感覚にこだわって作業を進めています。スタッフ4名、社内唯一女性のみの職場で心をこめて丁寧に、お客様に喜んでいただけるよう頑張っています。是非使用してみてください。良さがわかっていただけます。

JICO 製品展示会レポート

Exhibition report

オーディオ・ホームシアター展 (秋葉原)

2012年10月19日(金)~21日(日)、「オーディオ・ホームシアター展」(社)日本オーディオ協会主催)が、東京・秋葉原UDX及び秋葉原富士ソフトビルで開催されました。出展企業77社の商品・技術の展示にや、セミナーやイベントなど数多く行われ、オーディオ文化の情報と新技術が発信されました。弊社は、新ブランド「プラス アス」をはじめ、斬新なデザインの内ナーイヤホン「プリンター」や線の香りいっぴいのレコードクリーナー「奏」、宝石を散りばめたようなレコード針のディスプレイなどを展示。私たちの暮らしの中に「音による豊かさ」をプラスすることを提案しました。

ビジネス・エンカレッジ・フェア2012 (大阪)

2012年12月5日(水)・6日(木)、「ビジネス・エンカレッジ・フェア2012」(池田泉州銀行主催・但馬銀行・鳥取銀行共催)が、大阪国際会議場(グランキューブ大阪)で開催されました。出展企業51社、大学8校、公的機関14団体が集まり、技術や製品などを紹介する展示会となりました。弊社は、「オーディオ・ホームシアター展」で紹介したインナーイヤホン「プリンター」やレコードクリーナー「奏」、レコード針のディスプレイの他に、漆塗りされたレコード針や真っ白なトートバックなどを出展しました。生活の中に音が豊かに響く暮らし新ブランド「プラス アス」を提案しました。

うわさの JICO

外から見たJICOを誇ってました!

長年愛用しています!

青木歯科医院 / 東京都台東区 院長 青木 徳久 様

JICOの歯科バーを長年愛用しています。いつも変わらぬ品質で、振れが非常に少ないので、歯に余分な振動を与えることもなく治療することが出来ます。非常に滑らかで、切れ味も安定しており、安心して使っています。より良い歯科バーを選択することにより、患者様のためにも、より安全な治療を行うことが出来ます。

JICO 社内表彰

去る2012年10月6日(土)、社員自己啓発研修会場において、6名の社員が表彰されました。銀の糸賞に輝いたのは、ひたむきに良い行いをしている姿勢が認められ、山本晋也副主任(技術部)、石津大助さん(CG)、小谷久仁子さん(部品)、谷朋子さん(営業本部)、安藤俊介副主任(DD)が受賞。慈善賞には、チームワークを良く重んじ、献身の心と慈愛を持って人と仕事を支えていることが認められ、森場道子さんが受賞されました。「金の針賞」は今回該当者がいません。今後尚一層の精進を期待します。

左から、森場さん、谷さん、安藤さん、石津さん、山本さん、小谷さん

弊社の歴史は縫い針製造から始まりました。月日は、枚のタペストリー、織物だといふ人々の努力により、弊社も数え切れないほどの努力により、横糸を紡いでいます。そこで縫い針にちなんで「金の針賞」「銀の糸賞」という3つの社内表彰制度を設け、2年ごとに表彰しています。

JICOを支える! 人々

JICO Wo Sasaeru Hitobito

勤続年数6年
山本 暢子 YAMAMOTO Nobuko
DDグループ所属

「組立」めっき「試験」などすべてが手作業で細かい作業が多くあります。私は主に一本ずつ顕微鏡で検査をする「仕上げ検査」を担当しています。形状や粒度も様々なので、慎重さを求められます。お客様に満足していただけるよう妥協することなく心をこめて検査をしています。

慎重さを求められる検査を担当

角錐ドレッサの研磨作業を担当して約25年

勤続年数25年
濱田 幸子 HAMADA Sachiko
CGグループ所属

角錐ドレッサの研磨作業を担当して約25年になります。ドレッサは工業砥石の表面をダイヤモンドで自立して、整形するものです。製品の元であるダイヤ原石は、八面体二面体があり、一つ一つ形が違います。角錐ドレッサは主に八面体を使用しますが、最近では天然原石が不足し手に入りにくくなっています。そんな中にも、国内や海外でJICO製品が愛用していただけるよう、1本1本真心をこめてダイヤを磨きながら、今以上に技術も磨き、より良いモノづくりを進めたいと思います。

約40年も大活躍!

JICO 自慢の伝統機械

φ0.5mm~φ1.5mmのダイヤモンドをシャンクに埋め込むための道具です。この道具を使用することで、ダイヤモンドが固定され次の作業がスムーズに行えます。自社で製作し、約40年も活躍している優れものです。

メディア出演

ととにかく...「イーグル針」も「SAS針」も新製品の「奏」も最高なんです!

去る10月29日、阿部和則さんがパーソナリティーを務められる「カントリー・ミュージック・トラベル」(ラジオ関西/11月11日放送)に営業本部の城戸梨衣が出演させていただきました。放送では、弊社の「イーグル針」「SAS針」、新製品のレコードクリーナー「奏」などをPRしました。

お客様からの サクセスレター

レコード針修理業務は静かでも着実に伸びてきています。日頃から、アナログの良さを大切に守っていただいているお客様には感謝の気持ちでいっぱいです。そこで、実際にいただいたお客様の声を紹介させていただきます。

JICO ORTOFON SPUMONO/II
カンチレバーの掛け継ぎを致しました
以前より音のメリハリが良くなり、音像がはっきりとして、前に出てくるような感じになりました。とても満足しています。
<2012年11月 静岡県 S様>

JICO SHURE M65 ダエンチップの埋め込みを致しました
交換していただいた精円針は所有しているオリジナル針より気軽に使いやすく、50年代のカートリッジの厚重な空気がオリジナル針以上に再現できています。交換針の入手がきわめて困難な本カートリッジにとっては本当にありがたいサービスですね。同様のSP針付きのものがもう1点ありますので、近々お願いしようと思っています。60年代後半から70年代前半はオルトフォンのモノ針を使っていたのですが、ヘッドシェルごとの交換は折角の愛着を踏みにじるもので、止めてしまいました。当時こういうサービスがあったらよかったです。今後ともよろしくお願いたします。
<2012年11月 香川県 H様>